

Pioneer *sound.vision.soul*

5.1ch対応・DSPユニット

DEQ-P7

取扱説明書

目次 4ページ

carrozeria

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意 (警告を含む) しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止 (やってはいけないこと) の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)

警告

[使用方法]

運転中に操作をしない



禁止

画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

走行中にDVDなどを見ない



禁止

運転者がDVDなどを見る時は、必ず安全な場所に車を停車させてください。走行中にDVDなどを見ると前方不注意となり、交通事故の原因となります。

[異常時の処置]

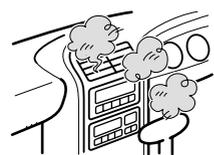
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



規定容量のヒューズを



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

— CONTENTS

必ずお読みください

- 安全のために必ずお守りください 2
 - 絵表示について
 - 安全上のご注意

はじめに

- 各部の名称 6
 - メインユニット (例: DVH-P717)
- ドルビーデジタル/DTS 対応 7
 - DVD の出力設定
- 本機のリセットについて 8
- 電源を ON にする 9
- 音量を調節する 9
- 電源を OFF にする 9

音の調節

- オーディオ調節のポイント 10
- モードの切り換えかた 10
 - オーディオ調節モードの切り換え
 - オーディオ詳細設定モードの切り換え
- SFC で音場を再現する 12
- リスニングポジションを選ぶ 13
- 前後左右の音量バランスを調節する 14
- 各ソースの音量の違いをそろえる . . . 15
- ダイナミックレンジコントロールを使う 16
- デュアルモノモードを使う 16
- オリジナルの音質で聞く 17
- ドルビープロロジックを使う 18
- 接続したスピーカーの設定をする 19
 - 各スピーカーの有無やサイズを設定する
 - サブウーファーの位相を切り換える
- カットオフ周波数を設定する 21
- スピーカーレベルを調節する 22
- テストトーンでスピーカーレベルを調節する 23
- タイムアライメントを調節する 24
- イコライザーカーブを使う 25
 - イコライザーカーブを選ぶ
 - 3バンドパラメトリックイコライザーを調節する

初期設定

音の歪みを補正する 28

その他

故障かな?と思ったら 30

共通項目

オーディオ/DSP

DVDの設定

保証書とアフターサービス 33

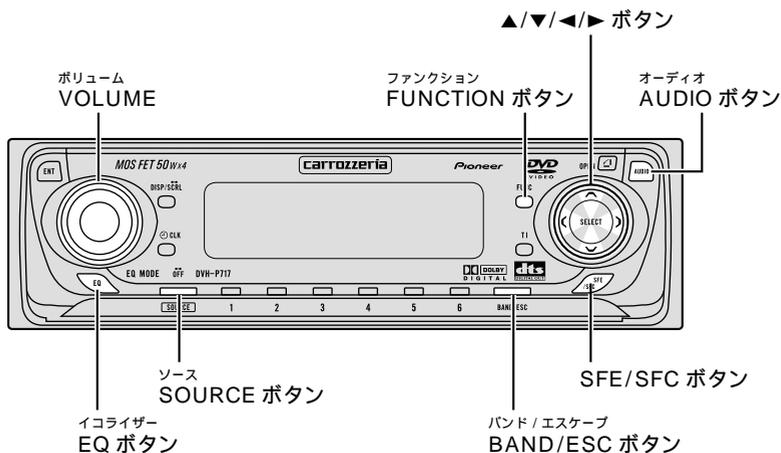
用語解説 34

おもな仕様 35

各部の名称

メインユニット (例：DVH-P717)

本機は、別売のメインユニットで操作を行います。



ドルビー * デジタル/DTS** 対応

当社のメインユニット (例 : DVH-P717) と組み合わせると、5.1 チャンネルで収録された映画/音楽のDVDを臨場感豊かに再現することができます。



- * ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- ** 「DTS」および「DTS Digital Surround」は、Digital Theater Systems, Inc. の登録商標です。

DVDの出力設定

組み合わせたメインユニット (例 : DVH-P717) の「デジタル出力」と「出力設定」を以下のよう
に設定してください。

デジタル出力 : 「Dolby D/LPCM」

出力設定 : 「48KHz」

詳しい操作方法は、メインユニットの取扱説明書をご覧ください。

- ・「デジタル出力」を誤って設定すると、ノイズが発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。
- ・「出力設定」を誤って設定すると、音声が出力されなくなります。正しく設定してください。

本機のリセットについて

本機を初期状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

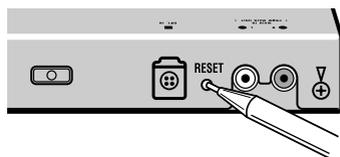
接続が終わったとき。

本機が正しく動作しないとき。

ディスプレイが正しく表示されないとき。

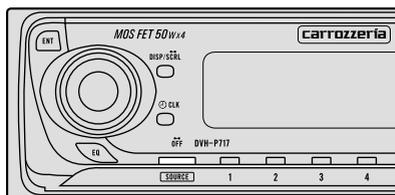
リセットボタンを押すと、本機の記憶（ポジションやタイムアライメント設定など）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

- 1 ペン先などでリセットボタンを押す
本機のマイコンが初期状態に戻ります。



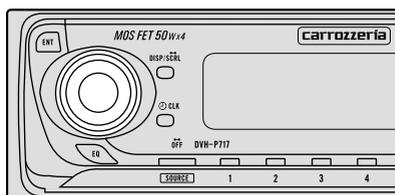
電源を ON にする

- 1 SOURCE ボタンを押す
電源が ON になります。

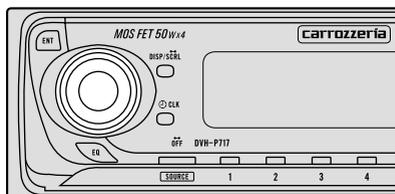


音量を調節する

- 1 VOLUME を押す
押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

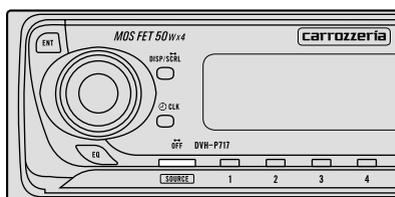


- 2 VOLUME を回す
右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき



電源を OFF にする

- 1 SOURCE ボタンを 1 秒以上押す
電源が OFF になります。



音の調節

オーディオ調節のポイント

次の順に設定や調節することで、きめ細かく好みの音場を創り出すことができます。

1. 接続したスピーカーの設定をする
2. リスニングポジションを選ぶ
3. タイムアライメントを調節する
4. テストトーンでスピーカーレベルを調節する
5. カットオフ周波数を設定する
6. スピーカーレベルを調節する
7. 3バンドパラメトリックイコライザーを調節する

モードの切り換えかた

音の調節は、オーディオ調節モードとオーディオ詳細設定モードを切り換えて操作します。

オーディオ調節モードの切り換え

1 AUDIO ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



リスニングポジションモード (13 ページ) 音量バランス調節モード (14 ページ)
 SLA モード (15 ページ) ¹ ダイナミックレンジコントロールモード (16 ページ) ²
 デュアルモノモード (16 ページ) ² ダイレクトモード (17 ページ)
 ドルビープロロジックモード (18 ページ) リスニングポジションモードに戻る

・オーディオ調節モードを解除するには、BAND/ESC ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

¹ ラジオの FM を聞いているときは、SLA モードには切り換わりません。

² DVD ディスクを再生しているとき以外は、ダイナミックレンジモードやデュアルモノモードには切り換わりません。

オーディオ詳細設定モードの切り換え

- 1** AUDIO ボタンを 2 秒以上押す
オーディオ詳細設定モードに切り換わります。



- 2** AUDIO ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



スピーカー設定モード (19 ページ) カットオフ周波数モード (21 ページ)
スピーカーレベル調節モード (22 ページ) テストトーンモード (23 ページ)
タイムアライメント調節モード (24 ページ) ¹ イコライザー調節モード (26 ページ) ²
スピーカー設定モードに戻る

- オーディオ詳細設定モードを解除するには、BAND/ESC ボタンを押します。
¹ リスニングポジションモードで F/R か F/L を選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。
² “CUSTOM1” または “CUSTOM2” 以外のイコライザーカーブを選んでいる場合、イコライザー調節モードには切り換わりません。

SFCで音場を再現する

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。

SFC(Sound Field Control)について

演奏会場は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音・初期反射音・残響音の長さや質が変化するためです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。

1 SFE/SFC ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



Musical Drama Action Jazz Hall Club OFF Musicalに戻る

Musical

音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生を楽しむのに適しています。

Drama

リアスピーカーの音と一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサラウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響き、ストーリー重視の映画を楽しむのに適しています。

Action

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンの迫力を包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむのに適しています。

Jazz

ジャズクラブでの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむのに適しています。

Hall

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きでクラシック音楽などを楽しむのに適しています。

Club

ディスコの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに適しています。

- ・ 2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックをOFFにすることをおすすめします。

リスニングポジションを選ぶ

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション (聞く位置) を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

リスニングポジションについて

リスニングポジションは、座席位置や人数に合わせて、自動的に各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを調節する機能です。SFCと組み合わせることで、全身を包むような豊かな音場を体感することができます。

- 1 AUDIO ボタンを押して、リスニングポジションモードにする



- 2 ▲/▼/◀/▶ ボタンを押して、リスニングポジションを選ぶ

- ▶ : 右ハンドル車に運転者のみがいるとき
- ◀ : 左ハンドル車に運転者のみがいるとき
- ▲ : 同乗者が助手席にいるとき
- ▼ : 同乗者が後部座席にいるとき

同じボタンを押すごとに、ON/OFF が切り換わります。

- 3 BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ タイムアライメント (24 ページ) を調節するには、リスニングポジションを F/R か F/L のいずれかに設定してください。



前後左右の音量バランスを調節する

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、音量バランス調節モードにする



- 2** ▲/▼/◀/▶ ボタンを押して、音量バランスを調節する

前後を調節するとき

▲：前を強めるとき

▼：後ろを強めるとき

前後のバランスはF25 ~ R25の範囲で調節できます。

左右を調節するとき

◀：左を強めるとき

▶：右を強めるとき

左右のバランスはL25 ~ R25の範囲で調節できます。



- 3** BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

各ソースの音量の違いをそろえる

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

1 SOURCE ボタンを押して、FMを受信する
FMの音量を確かめてください。

2 SOURCE ボタンを押して、調節したいソースに切り換える

3 AUDIO ボタンを押して、SLAモードにする



4 ▲/▼ ボタンを押してレベルを調節する

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき

レベルは - 4 から + 4 の範囲で調節できます。



5 BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- SLAとはSource Level Adjuster (ソースレベルアジャスター) の略です。
- FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードには切り換わりません。
- AM、テレビ、DVD、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、ビデオCDとCD、External1とExternal2、およびAMと交通情報は同じ設定になります。

ダイナミックレンジコントロールを使う

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールは、この幅を圧縮することで、音量を下げて楽しむ場合に小さな音も聞きとりやすくすることができます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、ダイナミックレンジコントロールモードにする



- 2** ▲/▼ ボタンを押す

- ▲ : ON
- ▼ : OFF



- 3** BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ドルビーデジタル音声だけです。
- ・DVD ディスクを再生しているとき以外、ダイナミックレンジコントロールモードには切り換わりません。

デュアルモノモードを使う

デュアルモノモードで記録されたディスクを再生する場合、出力するデュアルモノチャンネルを選ぶことができます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、デュアルモノモードにする



- 2** ◀/▶ ボタンを押して、出力するデュアルモノチャンネルを選ぶ

- L&R (左右)、L (左)、R (右) の中から選ぶことができます。



3 BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・デュアルモノモードの効果を得られるのは、デュアルモノモード音声だけです。
- ・DVD ディスクを再生しているとき以外、デュアルモノモードには切り換わりません。

オリジナルの音質で聞く

各種オーディオの設定を無効にすることができます。調整したオーディオ設定の効果を確かめるのに便利です。

1 AUDIO ボタンを押して、ダイレクトモードにする



2 ▲/▼ ボタンを押す

- ▲ : ON
- ▼ : OFF



3 BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ダイレクトがON の間は、音量調節 (VOLUME と ATT ボタン) のみ有効です。その他のオーディオ調節はできません。

ドルビープロロジックを使う

ドルビープロロジックでは、音の定位が鮮明になり、音の移動が自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

ドルビープロロジックのON/OFFについて

2チャンネルのリニアPCM または 2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックをOFFにすることをおすすめします。

- 1** AUDIO ボタンを押して、ドルビープロロジックモードにする



- 2** ▲/▼ ボタンを押す

- ▲ : ON
- ▼ : OFF



- 3** BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックをONにすると、次の様な現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーを接続していないのに、センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、音が出力されないことがあります。
 - * センタースピーカーを接続し、センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、センタースピーカーからのみ音が出力されることがあります。

接続したスピーカーの設定をする

各スピーカーの有無やサイズを設定する

スピーカーの接続の有無や接続したスピーカーのサイズ(低音域再生能力)の設定をすることができます。この設定により、スピーカーを接続していないために再生できないチャンネルの音を他のスピーカーから出力させたり、より再生に適したスピーカーから低音を出力させることができます。

スピーカーサイズについて

スピーカーサイズ設定は、100 Hz以下の周波数帯域を再生可能かどうかが目安になります。再生可能な場合は、「LARGE」に、再生不可能な場合は、「SMALL」に設定してください。

- 1** AUDIO ボタンを2秒以上押して、スピーカー設定モードにする



- 2** ◀▶ ボタンを押して、設定したいスピーカーを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカー センタースピーカー
サブウーファー位相切り換え¹



リアスピーカー サブウーファー

- 3** ▲/▼ ボタンを押して、スピーカーの有無やサイズを設定する

各スピーカーの設定は、次の中から選ぶことができます。

スピーカーの種類	設定
フロント	SMALL/LARGE
リア	OFF/SMALL/LARGE
センター	OFF/SMALL/LARGE
サブウーファー	OFF/ON
サブウーファー 位相切り換え	Normal/Rev.

- 4** BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する



- ・ 接続していないスピーカーの設定は、必ず「OFF」にしてください。
 - ・ サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーに低音再生能力がある限り、スピーカー設定は「LARGE」を選んでください。フロントとリア両方のスピーカー設定を「SMALL」にすると、低音が著しく不足した感じになることがあります。
 - ・ 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックをONにすると、次の様な現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーを接続していないのに、センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、音が出力されないことがあります。
 - * センタースピーカーを接続し、センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、センタースピーカーからのみ音が出力されることがあります。
- ¹サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えには切り換わりません。

サブウーファーの位相を切り換える

サブウーファーからの低音域の出力を調節しても低音域が良く聞こえてこなかったり、逆に小さくなったように感じた場合、他のスピーカーの低音域と打ち消し合っていることがあります。位相を切り換えることで、この現象を防ぎ低音域を聞きやすくすることができます。

- 1** AUDIO ボタンを2秒以上押して、スピーカー設定モードにする



- 2** ◀/▶ ボタンを押して、サブウーファー位相切り換えを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカー センタースピーカー
サブウーファー位相切り換え ¹



リアスピーカー サブウーファー

- 3** ▲/▼ ボタンを押して、サブウーファーの位相を切り換える

▲ : Normal (正相)

▼ : Rev. (逆相)



- 4** BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

¹サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えには切り換わりません。

カットオフ周波数を設定する

カットオフ周波数は、サブウーファーやスピーカーサイズを「SMALL」に設定したスピーカーの再生音域を設定します。サブウーファーからは、選んだ周波数より低い音域が出力されます。また、「SMALL」に設定したスピーカーからは、選んだ周波数より高い音域が出力され、カットされた低い音域はサブウーファーから出力されるようになります。サブウーファーを接続していない場合、カットされた低い音域は「LARGE」に設定したスピーカー（フロントまたはリア）から出力されるようになります。

- 1 AUDIO ボタンを 2 秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、カットオフ周波数モードにする



- 2 ◀/▶ ボタンを押して、カットオフ周波数を選ぶ

63、80、100、125、160、200 (Hz)の中から選ぶことができます。



- 3 BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- ・ サブウーファーのLPFと、スピーカーサイズを「SMALL」に設定したスピーカーのHPF両方のカットオフ周波数を設定します。サブウーファーが「OFF」で、他のスピーカーのサイズが「LARGE」や「OFF」に設定されている場合、カットオフ周波数の設定は無効になります。

スピーカーレベルを調節する

テストトーンで行った各スピーカーからの出力レベルを、実際の音声を聞きながらもう一度調節することができます。

- 1** AUDIO ボタンを 2 秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、スピーカーレベル調節モードにする



- 2** ◀/▶ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

フロントスピーカー (左) センタースピーカー フロントスピーカー (右) リアスピーカー (右) リアスピーカー (左) サブウーファー



- 3** ▲/▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき

レベルは - 10 から + 10 の範囲で調節できます。



- 4** BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- ・ このモードで調節した出力レベルは、テストトーンモード (23 ページ) で調節したレベルと同じ値になります。
- ・ スピーカー設定モード (19 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

テストトーンでスピーカーレベルを調節する

テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節し、スピーカーシステム全体のバランスを整えます。

- 1** AUDIO ボタンを 2 秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、テストトーンモードにする



- 2** ▶ ボタンを押して、テストトーン出力を開始する
約 2 秒ずつ、次の順で切り換わり続けます。



フロントスピーカー (左) センタースピーカー フロントスピーカー (右) リアスピーカー (右) リアスピーカー (左) サブウーファー

- 3** ▲/▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき

レベルは - 10 から + 10 の範囲で調節できます。



- 4** ◀ ボタンを押して、テストトーンを出力を停止する



- 5** BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- このモードで調節した出力レベルは、スピーカーレベル調節モード (22 ページ) で調節したレベルと同じ値になります。
- スピーカー設定モード (19 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーには切り換わりません。
- レベルを調節している間、テストトーンは次のスピーカーには切り換わりません。

タイムアライメントを調節する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション (13 ページ) を設定することで、自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。

タイムアライメントを調節するには

- ・リスニングポジションモード (13 ページ) で F/L か F/R を選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

- 1 AUDIO ボタンを 2 秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、タイムアライメント調節モードにする



- 2 ◀/▶ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ
ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。



フロントスピーカー (左) センタースピーカー フロントスピーカー (右) リアスピーカー (右) リアスピーカー (左) サブウーファー

- 3 ▲/▼ ボタンを押して、距離を調節する

- ▲ : 距離を遠くするとき
- ▼ : 距離を近くするとき

距離は 0.0 cm から 500.0 cm の範囲で調節できます。



- 4 BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- ・スピーカー設定モード (19 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

イコライザーカーブを使う

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されているイコライザーカーブの中から、好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

CUSTOM1 について

“CUSTOM1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(External1とExternal2は、同じ設定になります。)

CUSTOM2 について

“CUSTOM2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

FLAT について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 EQ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



POWERFUL NATURAL VOCAL FLAT CUSTOM1 CUSTOM2
SUPER BASS POWERFULに戻る

3 バンドパラメトリックイコライザーを調節する

“CUSTOM1”と“CUSTOM2”は、フロント/リア/センターのイコライザーカーブを別々に調節することができます。各スピーカーのバンドごとに中心周波数を設定し、レベル調節やカーブの傾きの切り換えを行うことができます。

3 バンドパラメトリックイコライザーを調節するには

- ・“CUSTOM1”または“CUSTOM2”以外のイコライザーカーブを選んでいる場合、イコライザー調節モードには切り換わりません。

イコライザーの調節について

センタースピーカーは、音像を定位させるのに影響が大きいスピーカーです。このため、他のスピーカーと同時にバランスをとるのは、とても難しい作業です。全体のバランスをとるため、2チャンネルの音声（CD など）を再生し、センターを除く全てのスピーカーのバランスを調節した後、5.1チャンネルの音声（ドルビーデジタルやDTS）を再生し、センタースピーカーを全体のバランスに合わせるように調節すると、スムーズに行うことができます。

中心周波数について

各バンドの中心周波数は、20種類の周波数の中から選ぶことができます。周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満に設定することはできません。

- 1 AUDIO ボタンを2秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、イコライザー調節モードにする



- 2 ◀/▶ ボタンを押して、調節したい項目を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

スピーカー バンド 中心周波数 レベル カーブの傾き



- 3 ▲/▼ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ

FRONT (フロント)、CENTER (センター)、REAR (リア)の中から選ぶことができます。



- 4** ▶ ボタンを押してから、▲/▼ボタンを押して、バンドを選ぶ

Low (低音)、Mid (中音)、High (高音) のの中から選ぶことができます。



- 5** ▶ ボタンを押してから、▲/▼ボタンを押して、中心周波数を選ぶ

▲ : 高い周波数を選ぶとき

▼ : 低い周波数を選ぶとき

100、125、160、200、250、315、400、500、630、800、1k、1.25k、1.6k、2k、2.5k、3.15k、4k、5k、6.3k、8k (Hz) のの中から選ぶことができます。



- 6** ▶ ボタンを押してから、▲/▼ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : 強めるとき

▼ : 弱めるとき

レベルは-6 から +6 の範囲で調節できます。



- 7** ▶ ボタンを押してから、▲/▼ボタンを押して、カーブの傾きを選ぶ

▲ : Q.WIDE (緩やかな傾き)

▼ : Q.NAR. (急な傾き)



- 8** 手順2 ~ 7 を繰り返して、各スピーカーの各バンドを同様に調節する

- 9** BAND/ESC ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- ・ スピーカー設定モード (19 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

音の歪みを補正する

イコライザーカーブの調整による音の歪みを抑制することができます。

1 SOURCE ボタンを1秒以上押し、本機の電源をOFFにする

2 電源がOFFのときに、FUNCTION ボタンを2秒以上押し

初期設定モードが表示されます。



3 FUNCTION ボタンを押して、デジタルアッテネーターモードを選ぶ



4 ◀/▶ ボタンを押して、デジタルアッテネーターの設定を切り換える

▶ : High

◀ : Low



5 BAND/ESC ボタンを押して、初期設定モードを解除する

- ・ イコライザーカーブの設定で、レベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、「Low」に切り換えてください。(通常は音質が優れている「High」のままお使いください。)

故障かな？と思ったら

故障かな？と

思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても

直らないときは

本機をリセットしてください。(8ページ)

それでも

直らないときは

「保証書とアフターサービス」(33ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (「取付説明書」参照)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。 (「取付説明書」参照)
	接続が間違っている。	正しく接続してください。 (「取付説明書」参照)
音が出ない。	音量を下げている。	音量を上げてください。 (9ページ)
	前後左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (14ページ)
	音が出ないスピーカーがある。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (19ページ)
音が出ないスピーカーがある。	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (19ページ)
	スピーカーのレベル設定が極端に小さくなっている。	他のスピーカーのレベルとバランスをとってください。 (22ページ)
	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズをSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。 (19ページ)

オーディオ/DSP

症状	原因	処置
スピーカーの調節ができない。	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (19ページ)
タイムアライメントの調節ができない。	リスニングポジションの設定が間違っている。	リスニングポジションを正しく設定してください。 (13ページ)
	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (19ページ)
サブウーファーの位相が切り換えられない。	サブウーファーの設定がOFFになっている。	サブウーファーの設定をONにしてください。 (19ページ)
低音域が聞こえない。	サブウーファーの設定がOFFで、それ以外のスピーカーのサイズ設定もOFFやSMALLになっている。	正しく設定してください。(サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーのサイズ設定は、LARGEにしてください。) (19ページ)
ドルビープロロジックをONにすると、音が出ないときがある。	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズ設定をSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックをONにすると、センタースピーカーからのみ音を出力するようになります。) (19ページ)
センタースピーカー以外のスピーカーから音が出ないときがある。	ドルビープロロジックがONになっている。	ドルビープロロジックをOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックをONにすると、センタースピーカーからのみ音を出力するようになります。) (18ページ)
ダイナミックレンジコントロールをONにしても効果がない。	再生しているソースがドルビーデジタル音声でない。	ドルビーデジタル音声にだけ有効な機能です。 (16ページ)

DVDの設定

症状	原因	処置
DVDの音だけ出ない。	光デジタルケーブルが外れている。	光デジタルケーブルを正しく接続してください。 (「取付説明書」参照)
	DVDの出力設定が間違っている。	正しく設定してください。 (「DVDプレーヤーの取扱説明書」参照)

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

その他

用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは最大 5.1 チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして装備されているドルビーデジタルと同一のシステムです。



ドルビーデジタルを楽しむには、本機の光デジタル入力端子とドルビーデジタル対応の DVD プレーヤーなどの光デジタル出力端子を接続する必要があります。

ドルビープロロジック

ドルビーサラウンドプロロジックのマークのある 2 チャンネルのソフトをドルビープロロジック対応の AV アンプで再生すると、4 チャンネルの信号に変換されます。



ドルビープロロジックでは、音の定位が鮮明になり、音の移動が自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

ダイナミックレンジコントロール

ドルビーデジタルには音の強弱の幅を圧縮する機能があります。この機能がダイナミックレンジコントロールです。ダイナミックレンジの広い音声を小さな音量で聞く場合でも、良好な聴感が得られるようにコントロールします。

光デジタル入力

音声信号をデジタル信号で受け取ることで、音質の劣化を最小限に抑えることができます。また、デジタル信号を光で受け取るようにしたものが光デジタル入力です。(DVD プレーヤーなど出力側には、光デジタル出力が必要です。)

DTS

Digital Theater Systems の略です。DTS は、サラウンドシステムで、最大 6 チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。



DTS ディスクを楽しむには、本機の光デジタル入力端子と DTS 対応 DVD プレーヤーなどの光デジタル出力端子を接続する必要があります。

リニア PCM (LPCM)

音楽 CD に用いられている信号記録方式で、Linear Pulse Code Modulation の略です。音楽 CD では、44.1 kHz/16 bit で記録されているのに対し、DVD では、48 kHz/16 bit ~ 96 kHz/24 bit で記録されているため、音楽 CD よりも高音質の再生が可能です。

おもな仕様

共通部

使用電源：	DC 14.4 V (10.8 ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式：	マイナスアース方式
最大消費電流：	10 A
外形寸法：	237 (W) × 29 (H) × 171 (D) mm
質量：	1.05 kg (コード含まず)

オーディオ/DSP部

最大出力：	50 W × 5
定格出力：	22 W × 5
負荷インピーダンス：	4
プリアウト最大出力レベル：	5.0 V
出力インピーダンス：	100
デコーダー：	リニアPCM/ドルビーデジタル/ドルビー プロロジック/DTS
サブウーファー：	クロスオーバー周波数： 63/80/100/125/160/200 Hz
レベル：	± 10 dB
スピーカー設定：	タイムアライメント： 0.00 ~ 5.00 m (2.5 cm)
調整幅：	± 10 dB
イコライザー：	バンド：3バンド 周波数：100/125/160/200/250/ 315/400/500/630/800/ 1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/ 3.15k/4k/5k/6.3k/8k Hz
ゲイン：	± 12 dB
クロスオーバー周波数：	63/80/100/125/160/200 Hz

付属品

コードユニット	: 1 式
取付キット	: 1 式
取付ネジ類	: 1 式
取扱説明書	: 1
取付説明書	: 1
安全上のご注意	: 1
保証書	: 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	: 1

- ・ 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。



この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

お客様ご相談窓口 (全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

カーオーディオ / カーナビゲーション商品のお問い合わせ窓口

 **0070-800-8181-11**

カタログのご請求窓口

 **0070-800-8181-33**

<ご注意> PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話、および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。
修理に関しては、別添えの『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内
<http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html>

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2002

<KMMZF/02B00000> <CRA3294-B>